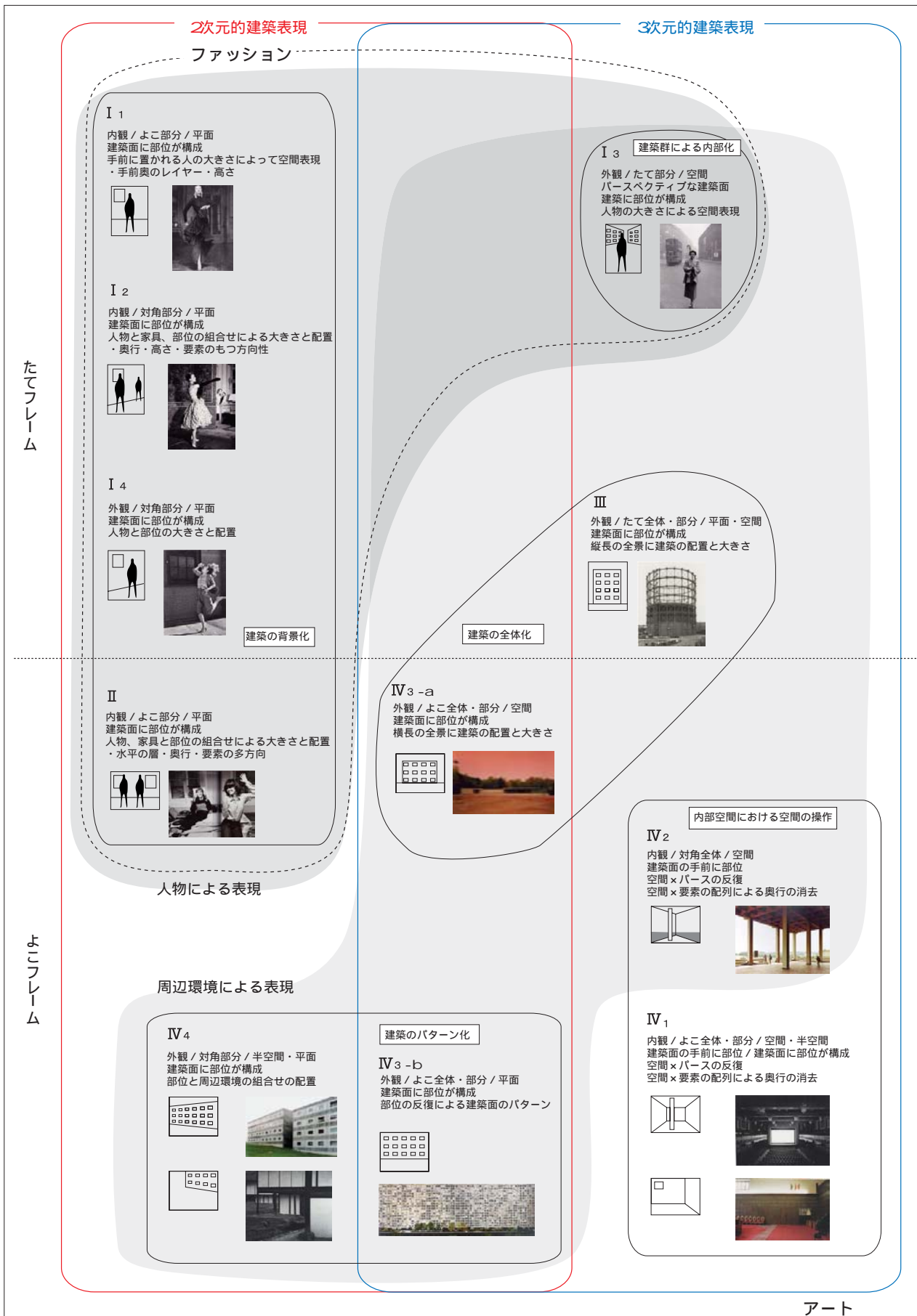


# 写真表現における建築のあらわれ方に関する研究



## スタディ

建築が写っているファッション、アートの両分野の作品を対象に写真の構成要素（写真のフレーム／建築面／周辺環境／人物／部位／家具）について考察・分析した結果、それぞれの分野には、その表現と建築のあらわれ方に偏りが見られた。分析をもとに作品の少ない表現に対してスタディを行った。

### case1

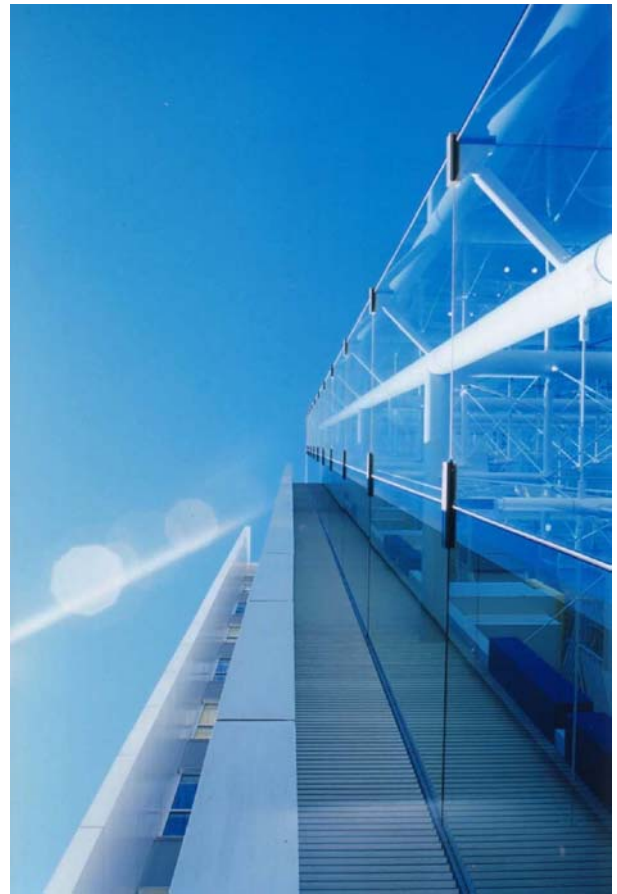
建築特有の3次元的表現は写真においてそのほとんどが全体としての空間の広さや奥行にあらわれていた。そこで建築のもつ高さという3次元的な空間の特徴をスタディした。極端な見上げや見下げといった角度や柱の長さという線的な表現によって2次元的にも捉えられる表現を試みた。

### case2

構成要素をどう写真のフレームの中に取り込むかによって建築のあらわれは変化する。そこで一つないしは二つの要素を強調、または複数の要素を反復させることによって生まれる表現をスタディした。

### case3

人、部位といったスケールや建築らしさを強調する要素が今までの建築のあらわれ方として重要な位置を占めることがわかった。そこで2つの要素のあるなしによってつくられる建築のあらわれをスタディした。またここではフレームの切り取り方の違いによる表現の違いも試みた。



NASDA新館

### case1 高さのあらわれ

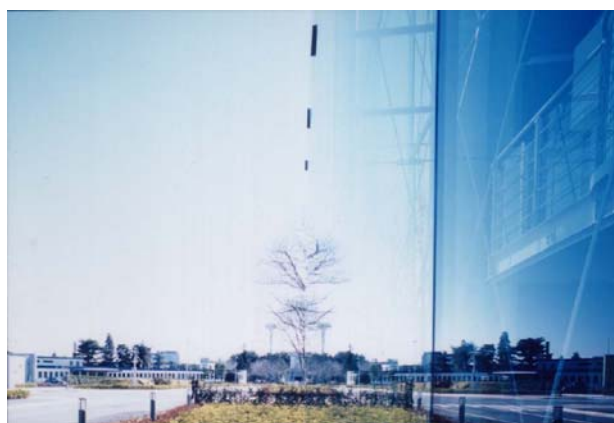


つくば国際会議場

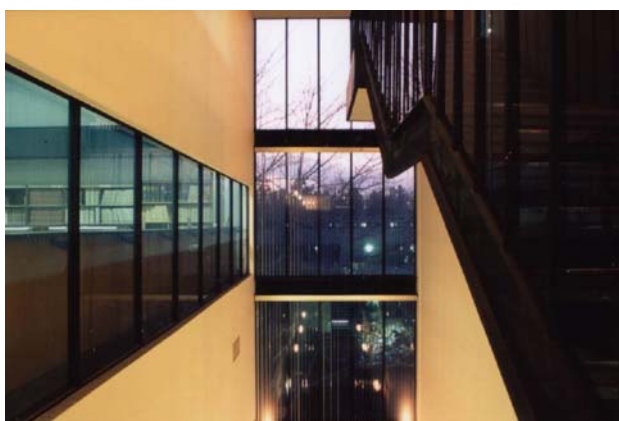


筑波大学体芸図書館吹抜

case2 要素の反復、強調



NASDA新館



筑波大学体芸図書館吹抜



地下鉄駅ホーム



つくばカピオ体育館

case3 要素（人、部位）のあるなし



筑波大学体芸中央棟廊下 1



筑波大学体芸図書館閲覧室 2



筑波大学体芸中央棟廊下 2



筑波大学体芸図書館閲覧室 1